

リニア中央新幹線って本当に必要なの？

公聴会を傍聴して、いま、改めて思う ～ 宮前の会会員 松岡かおる

1月19日宮前区役所で開催された「公聴会」を聞いての問題点

- ◆リニア新幹線は、川崎市内16.3Kmを深さ40m以下の大深度にトンネルを掘削する計画ですが、川崎市内では通過するのみで停車駅はありません。またそれに加え市内に立て坑(非常用出口)を等々力緑地(ここは地下113m)のそばのエネオスグラウンド、JR梶が谷操車場(設備棟を含む)、犬蔵のサンワ工業、東百合丘の日本ゴム跡地、片平の5か所に設けられる計画です。
 - ◆リニア新幹線は高速走行を可能にするため、できる限り直線コースをとるので個人所有の住宅地の下をもかまわず通り抜けます。地下40m以下の土地は「大深度法」により個人の所有権はなく、何も保障もされません。工事中や完成後も振動騒音など、どのような被害に及ぶか想像もつきません。トンネル予定地から外れたら、被害がないと考えられるかたが多いと思いますが、直径15mのトンネルと立て坑から排出される土砂の量は川崎市内だけで400万^mダンプ95万台、馬絹の交差点では1時間に84台とされています。
 - ◆大型車両から排出される二酸化窒素などは大気汚染の主な原因で、喘息やアレルギー性鼻炎をひきおこすことが知られております。馬絹交差点では、現在でも環境基準値の0.06ppmをはるかに超えた0.2ppmと恐るべき数値を観測しており、さらにリニア工事による資材搬入や排出土砂の大型車が尻手黒川道路を10年以上にわたって走行することになると、私たちの健康被害は免れません。
 - ◆さらにJR東海は土砂の最終処理については明確にせず、その費用も予算にいれていません。土砂の処理は川崎港あたりを埋め立てるとしたら、その費用を川崎市に転嫁する恐れがあります。JR東海は6兆にも及ぶ建設費を全額自己負担するといっていますが、その節々に地方自治体や国をあてにしているくちぶりがみうけられます。
 - ◆人口減少が顕著な日本で、しかも約86%が地下トンネルで、地震時の安全性にも疑問があるリニア新幹線は、かりに完成したとしても、採算性は全くなく、その赤字補てんに国民の税金が使われる公算も高いのです。
- 問題点はまだまだたくさんありますが、私たちの生活環境を脅かす川崎市内の身近な問題をまず取り上げました。